

国際ロータリー第2620地区
米山学友会

会報 Vol.17 2025-26 年度



2026 年 5 月 発行

目 次

(敬称略)

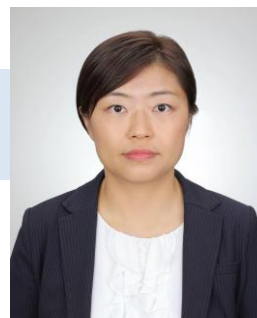
- 1、つながりの中で広がる奉仕のかたち (挨拶) 米山学友会長 孫 麗
- 2、絆の年輪を重ねて (寄稿) 地区ガバナー 稲葉 雅之
- 3、米山記念奨学事業は素晴らしい (寄稿) 地区米山記念奨学委員長 飯島 崇宏
- 4、学友ロータリアンとしての想いと抱負 金 相均・青山 チャリット
- 5、2025-26 年度役員会メンバーリスト
- 6、子ども食堂支援活動について (報告) 上野 佳子
- 7、米山奨学生ひろば ～期間終了に想うこと～
- 8、2025-26 年度 活動記録 (写真)
- 9、2025-26 年度 期間終了の米山奨学生一覧
- 10、2026-27 年度 新規・継続米山奨学生一覧
- 11、2026-27 年度 主な行事予定

表紙写真撮影： 米山奨学生 ヘーラット ラーララーゲ サンドウニ ドウラクシカ ヘーラットさん
(スリランカ、2026-27/清水RC)

1. つながりの中で広がる奉仕のかたち

米山学友会会長

孫 麗（中国、2012-14/大阪なにわRC）



日頃より、2620 地区米山学友会の活動に対し、温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本学友会は2009年3月に設立され、本年で17周年を迎えました。これまで多くの学友ならびに関係者の皆様に支えられながら、地域社会への貢献と国際交流の推進に取り組んでまいりました。現在は40名余の正会員を中心に、現役奨学生も準会員として参加し、世代や国籍を超えたつながりの中で活動を展開しております。

この1年間をふり返ってみますと、7月の通常総会を皮切りに、10月の三保松原での清掃活動など独自の地域奉仕活動を実施してまいりました。さらに12月の地区大会への参加、新規奨学生の面接支援や終了式・対面式へのサポートなど、多岐にわたる活動で多くの会員の参加を得ました。

総会では米山学友23名、奨学生27名のほか、地区役員や学友委員会、米山奨学委員会、奨学生カウンセラーなど世話クラブ関係者の皆さまにもご出席いただき、総勢93名でたいへん盛り上がりました。リニューアルされたばかりの米山梅吉記念館2階の展示室で、学芸員市川様の解説を聞き、米山翁の功績に触れ、奨学事業への理解を深めることができました。

また「三保松原清掃奉仕活動」は今年度で5年連続の実施となりました。枯れ落ちた松葉を取り除き、根元の日照を確保し、松の木に十分な栄養を行き渡らせるための大切な清掃です。米山学友と奨学生、山静学友(ロータリー財団学友)、そして地区役員、委員、奨学生カウンセラー、ローターアクターなど計55名の皆さまが参加し、ひと汗をかきました。

さらに今年度は新たな取り組みとして、「子ども食堂支援活動」を自主企画として初めて実施いたしました。これまで当学友会では、海外の子どもたちへの教育支援を中心に国際奉仕活動を継続してま

いりましたが、「今、自分たちの足元である日本の子どもたちにも目を向け、支えていきたい」という思いから、この活動を立ち上げました。地域の子どもたちや関係者の方々と直接触れ合う中で、支援の意義と責任の大きさを改めて実感するとともに、学友会としての新たな可能性を見出す貴重な機会となりました。

このような活動を通じて、学友会としての役割を再確認するとともに、地域との結びつきをより一層深めることができましたと感じております。

今後も、「奉仕の精神」を大切にしながら、地域社会への貢献と国際的なつながりの深化の双方を軸に活動を展開してまいります。また、学友同士の交流をさらに活性化させ、多様な背景と意欲を持つ人材が互いに学び合い、高め合える場づくりを目指してまいります。

引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

末尾になりますが、本号の発行にあたり、地区ガバナー 稲葉雅之様、ならびに米山記念奨学委員長 飯島崇宏様におかれましては、ご多忙の中ご寄稿を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

表紙用写真を応募して頂いた米山奨学生と学友の皆さん、ありがとうございました。



通常総会を終えて

2. 絆の年輪を重ねて

地区ガバナー

稲葉 雅之（伊東西ロータリークラブ）



富士の裾野に若葉が萌え、爽やかな風が吹き抜ける季節となりました。

米山学友会の皆様におかれましては、日頃より「世界理解、親善、平和」という大きな理想を掲げ、多角的な奉仕活動を展開されていますことに、心より敬意と感謝を申し上げます。

また、歴代の会長のご貢献には頭が下がる思いです。

この度、会報第17号の発行を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。

本会は、2009年に「米山梅吉翁のお膝元として最後になるわけにはいかない」という当時の先輩方の焦燥感と情熱によって産声を上げたと同っております。いわば「ブービー賞」からのスタートであったというエピソードには、思わず笑みがこぼれますが、その誕生から17年。着実に歩みを止めることなく、今日という日を迎えられた皆様の底力に深い感銘を覚えます。

現在、世界は混迷を極めています。絶えない紛争、深刻な環境問題、そして急激な社会の変化。こうした先行きの見えない時代だからこそ、国際ロータリーが今年度掲げるテーマ「UNITE FOR GOOD」という言葉は、私たちに明確な指針を与えてくれます。

平和を維持するために最も必要なもの。それは決して武力や経済力ではなく、「対話ができる信頼関係」の構築に他なりません。かつて米山奨学生として日本で学び、現在は社会の第一線で活躍する学友の皆様、そして今まさに夢を追いかけている現役奨学生の皆様。国境や世代を超えて同じテーブルを囲み、真摯に言葉を交わすその瞬間こそが、平和への最も確実な一歩となります。学友会が構築している世界11カ国におよぶネットワークは、単なる交流の場を超え、地球を包み込む「平和の防波堤」であると私は確信しております。

皆様が自主企画として取り組まれた「子ども食堂支援」プロジェクトをはじめ、「三保松原清掃奉仕活動」「柿田川遊水公園奉仕作業」など、自らの貴重な時間を割き、地域に寄り添うその姿は、ロータリーの基本理念である「超我の奉仕」を体現する、感動的な活動です。関わった若い世代が「誰かのために動ける大人」へと成長していくとするならば、これはまさに「理想的な社会連鎖」と言えるはずです。

さて昨年、待望の「米山学友会 Website」が開設され、情報の広がりも新たなステージに入りました。デジタル技術を活用して繋がりを強固にしつつも、その根底にあるのは常に、会報の誌面から伝わってくるような「顔の見えるぬくもりある交流」であってほしいと願っています。

米山梅吉翁は、「奉仕の精神は、理屈ではなく実践である」と説きました。

学友会の皆様、これからも富士山のような揺るぎない志を持ち、それぞれの場所で人生を精一杯エンジョイするとともに、山梨の桃のように幸せをもたらす「平和の使者」として輝き続けて下さい。

皆様の歩む道の先に、より良い、より平和な未来が開けていることを信じて疑いません。

米山学友会の益々のご発展と、会員お一人おひとりのご健勝を祈念致しまして、私の挨拶とさせていただきます。



4月5日の対面式にて新奨学生にタスキを掛けます。

3. 米山記念奨学事業は素晴らしい

地区米山記念奨学委員長

飯島 崇宏（伊東西ロータリークラブ）



静岡市のグランディエールブuketーカイの会場において、2026年3月8日（日）に、米山奨学生期間終了式を開催し、奨学生期間2年間の奨学生が7名、期間1年間で16名の計23名の奨学生と世話クラブカウンセラーに終了証と感謝状を稲葉雅之ガバナーから授与してもらい、無事に送り出すことが出来て嬉しく思います。そして、参加したすべての奨学生より3分間のスピーチをしてもらいました。堂々とした様子で、スピーチをする姿から成長を感じました。

1年間の地区の米山事業を振り返ると、4月の対面式、7月の学友会総会と交流会、9月の柿田川湧水地清掃奉仕活動、10月の三保の松原清掃奉仕活動、12月のエクスカッションとエクステンジミーティングと地区大会参加と多くの事業を行って参りました。

印象深い事業を紹介すると、7月の学友会総会の際の交流会では、リニューアルした米山梅吉記念館を見学し、日本のロータリーの父と言われる米山梅吉氏を知る良い機会になりました。交流会のティーパーティーでは、奨学生とカウンセラーとの交流を深める場となりました。また、奨学生アーマドさんのギター演奏とフィンヴァンカンさんのピアノ演奏は、とても印象に残っています。

学友会主催の三保の松原清掃奉仕活動では、落ちた松の葉が、松林に悪影響を及ぼす話を聞いて、袋一杯松の葉を集める作業に汗を流しました。終了後の交流会では、意見交換ができて、貴重な機会になりました。

12月の地区大会開催地の伊東でのエクスカシ

ョンとエクステンジミーティングは、思い出に残る研修旅行になりました。次の日の伊豆ペロドローム（自転車競技場）での地区大会では、募金活動を実施し、また、ホームカミング事業で、韓国から来日した学友のユンミジョンさん（静岡西RC）と学友会長の孫麗会長の素晴らしいスピーチは、ロータリーの会員にむけて、米山事業をアピールする場になりました。

昨年の5月に2年に一度の全国学友会会長会議があり、孫麗学友会会長と参加いたしました。活躍している学友会として、ベトナムの小学校に自転車を寄付する奉仕事業を孫麗会長が紹介し、誇らしく感じました。

また、現役奨学生が世話クラブで卓話をするのは、もちろんのことですが、他の世話クラブになっていないロータリークラブに出向いてスピーチをすることは、奨学生本人の成長につながり、さらに世話クラブになっていないクラブに米山事業を知ってもらう機会になります。そして、米山学友を卓話に呼びたいと希望するクラブも増えてきて嬉しい限りです。

最後に、この事業は、すでに25000名以上奨学生を支援してきました、つまり、25000人以上の学友が誕生しています。すでに、300人以上の学友が、ロータリアンになっています。すでに、3名のガバナーが誕生し、次年度は、インドネシアで新たなガバナーが生まれます。米山事業の成果は、米山学友の活躍にあります。今後、ますます発展すると確信しています。これからもご支援よろしく願いいたします。



4. 学友ロータリアンとしての想いと抱負

今年度は、当学友会会員2名がロータリークラブの入会し、晴れてロータリアンになりました。その想いと抱負をお届けします。

金 相均 キム サンギョン (韓国/静岡RC会員)

◆奉仕という生き方との出会い

私がロータリーの門を叩いたのは、銀行員から個人事業主として独立し、人生の新たな章を歩み始めた時期と重なります。多くの企業経営者の方々と向き合う中で、「数字を整える仕事」の先に何があるのか、自分はこの社会に対して何を残せるのかという問いが、日増しに強くなっていきました。

そのような折に、かつて米山記念奨学金というロータリー

の温かい支援を受けた記憶がよみがえりました。いただいた恩を今度は自分が送り返す番だ—その思いがロータリー入会への最初の一歩でした。「奉仕」とは、私の人生に深く根を張った言葉です。3歳で両親が離れ、母の再婚を機に日本へ渡り、異国



児玉俊明会長とのツーショット

の地で育った私にとって、「誰かの役に立つこと」は生きる支えでもありました。私の名前「相均」には、「出会った相手に均等に優しくする」という願いが込められています。その名の通りに生きることが、私の原点です。

ロータリーはその原点と深く響き合いました。国籍や職業を超えて、地域社会と世界に貢献しようとする仲間たちの姿に、「ここが自分の居場所だ」と感じました。

◆米山学友のロータリー会員として

奨学生に寄り添い、相談しやすい先輩であること。寄付は義務ではなく「未来への投資」と伝えること。奨学事業の力を自ら体現すること を大切にしています。今後は「国際理解と友情」の架け橋になることを目標に、奉仕プロジェクトに主体的に関わっていきます。

入会してまだ間もない私ですが、財務・金融の専門知識を活かしながら、地域の中小企業や次世代の担い手を支える活動に全力で貢献していきたいと考えています。

奉仕を「仕事」ではなく「生き方」として体現できるロータリアンを目指し、これからも真摯に歩んでまいります。



入会あいさつ

青山 チャリット (スリランカ/富士宮RC会員)

◆奨学生時代の「原点」

「母国の子どもたちのために何かできないか」と自分の想いを阿部裕之カウンセラー(静岡日本平 RC)に相談したところ、すぐに動いてくださり、クラブの皆様のご協力でご企画することができました。それが「スリランカの恵まれな子どもたちへの文房具贈呈プロジェクト」です。

この経験が私の原点となり、その後、米山学友会の会長や理事を務める中でも、複数回スリランカへの支援活動を実施することができました。



2017年1月、母国での文房具贈呈式にて

奨学生時代に蒔いていただいた“支援の種”が、その後の活動へと繋がっていることを大変嬉しく思っています。

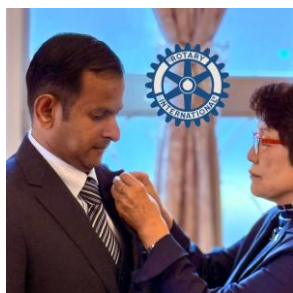
その当時、家族が近くにいない日本での生活は、時に寂しさを感じることもありましたが、ロータリアンの皆様との出会いが、その生活を温かく、楽しいものに変えてくれました。毎月の例会に参加し、ミニ卓話でスリランカの文化や現状をお話する時間は、とても楽しく、貴重な体験でした。

また阿部カウンセラーの存在は、私にとって父親のようなものでした。困ったときや迷ったときには、いつも親身に

なって話を聞いて頂き、的確なアドバイスをくださり、精神的にも大きな支えとなっていました。

◆「いつか支える側に！」ロータリアンになろうと思った

こうしてロータリアンの皆様と出会えたことで、私の人生は大きく変わりました。支えていただいた経験を通じて、「いつか自分も支える側になりたい」と強く思うようになったのです。



向井洋子会長よりバッジの授与

奨学期間終了後もロータリーとのご縁を大切にしたいという思いから、チャーターメンバーとして「ロータリー第2620 地区米山学友会」の設立に携わりました。

ロータリーとのつながりは、奨学生期間だけのものではなく、人生を通じて続いていくものだ実感しています。

ロータリークラブに入会してから、「自分のためだけでなく、地域や社会のために何ができるか」を常に考えるようになりました。これまでは支援をいただく立場でしたが、今は恩返しをする立場としての責任を強く感じています。

また、例会や活動を通じて、多くの方の経験や価値観に触れることで、自分自身の視野が広がり、物事をより長期的・多角的に考えるようになりました。日々の仕事や行動においても、「誠実さ」と「社会への貢献」を意識するようになったことが大きな変化であり「学び」です。

◆今後の抱負と奨学生や、米山学友へのメッセージ

かつて米山奨学生として多くの方に支えていただいた経験を大切にし、今は自分が誰かを支える側のロータリアンになろうとしています。特に、外国人と日本社会の架け橋となり、多様な人材が安心して活躍できる環境づくりに貢献していきたいと考えています。地域社会に根ざしながら、仕事を通じて社会課題の解決にも取り組み、信頼されるロータリアンとして成長していくことが今後の目標です。

米山奨学生の皆さん！奨学生として過ごす時間は、経済的な支援だけでなく、多くの出会いと学びに恵まれる大変貴重な経験です。ぜひ感謝の気持ちを大切にしながら、勉強だけでなく、人とのつながりやさまざまな活動にも積極的に参加してほしいと思います。

その経験は、必ず将来の自分の力になります。やがて、その力を社会に還元し、次の世代につないでいく。そんな仲間が増えることを心から願っています。



5. 2025-26 年度 役員会メンバー

役職	氏名 (出身国/世話クラブ)	
会長	孫 麗 (中国/大阪なにわ RC)	
副会長	ファム ゴック アン (ベトナム/浜松南 RC)	
理事	清水 重楼 (中国/静岡西 RC)	青山 チャリット (スリランカ/静岡日本平 RC)
	上野 佳子 (会計兼。中国/東京臨海東 RC)	崔 城豪 (韓国/豊中南 RC)
	朱 双彤 (中国/静岡西 RC)	許 允碩 (韓国/袋井 RC)
監事	金 相均 (韓国/静岡 RC)	柳場 文彦 (地区学友委員長、山梨 RC)

6. 子ども食堂支援活動について

米山学友会理事

上野 佳子（中国、2000-02/東京臨海東RC）

本学友会はこの10年間、スリランカやモンゴル、ベトナムの子どもたちを対象とした海外教育支援活動に取り組んできました。今年、日本国内で子どもたちのために食事や居場所づくりを支えている「子ども食堂」の活動に着目しました。

そこで、ロータリアンの皆様にもご相談し支援先を検討したところ、柳場文彦地区学友委員長より、山梨市での「こども食堂 風の子イートステイ」をご紹介いただきました。

その後、同施設を訪問し、熊谷朋子園長先生に二度にわたりお話を伺い、子ども食堂が地域社会の中で果たしている役割や運営方針、日々のご苦労などへの理解を深め、寄付を行なうことを決定しました。

そこで地区大会で募金活動を実施し、子ども食堂で必要とされていた炊事器具とお米を準備しました。

2月21日（土）、贈呈式当日、まず「こども食堂 風の子イートステイ」のスタッフの方より、本贈呈式の趣旨についてご説明をいただき、続いて、孫麗会長より「風の子イートステイ」の熊谷朋子代表へ目録の贈呈を行ないました。

その後、孫会長ならびに学友会側参加者からの挨拶を行ない、続いて熊谷代表よりご挨拶をいただきました。そして、集合写真の撮影、施設の見学と試食もさせていただきました。

贈呈式を通じて、地域の子どもたちと住民のための取り組みについて意見交換をさせていただき、温かい雰囲気の中で地域のつながりの大切さを改めて感じる良い機会となりました。

熊谷代表からは、「子ども食堂の活動は地域の皆さまの支えによって成り立っており、このようなご支援は大変励みになり、心より感謝

申し上げます。今回のご縁を大切に、今後も学友会の皆様とのつながりを大切にしていきたい」とのお話がありました。

贈呈式を終え、孫会長は「今回は学友会として初めての取り組みでしたが、ロータリアンの皆様や多くの方々のご協力が無事に実施できましたことを心より感謝申し上げます。子ども食堂が食事の提供だけでなく、子どもたちが安心して過ごせる大切な居場所となっていることを改めて実感しました。今回のご縁を大切に、今後も地域社会に貢献できる活動を続けていきたい」と述べました。

当学友会として初めてのプロジェクトが、多くの方々のご協力で成功裡に実施することができたことを報告させていただきます。

参加者の孫麗会長、ファム ゴック アン副会長、レーティー キム ニー会員、米山奨学生の文成豪さん、柳場文彦地区学友委員長、皆さま、大変お疲れ様でした。



地区大会にて募金活動



7. 米山奨学生ひろば ～奨学期間終了に想うこと～

奨学期間終了の皆さんに下記6つの項目について任意に回答し、メッセージを頂きました。

- ①米山奨学生として、最も印象に残っている出来事は？
- ②奨学期間を経て、一番成長したと感じることは？
- ③米山奨学金がなかったら、今の自分はようになっていたと思いますか？
- ④米山奨学生ならではの経験はありましたか？
- ⑤今後、米山学友としてどんな貢献をしたいですか？
- ⑥これから夢や目標を一言で表すと？

フィン フー ヒエン ニャン (ベトナム 静岡北RC)

- ①奨学生として全く知らない人と出会い、活動や交流を重ね、地区大会でたくさん友達ができ良い関係が築けたこと、それが一番印象に残っています。
- ②考え方や伝え方が変わりました。視点が広がり、相手に分かりやすく伝える工夫や配慮が自然にできるようになりました。
- ③奨学金がなければ、学びと生活は続けていたと思いますが、一人で進む寂しさがあり、成長の道が面白く感じられなかっただろう、と思います。
- ④家族のように話しやすい仲間と過ごし、有意義な時間を共有しながら、無償の学びで自分が成長できたことが特別な経験でした。
- ⑤先輩と後輩をつなぎ、他国の文化理解を促し、自分が得た経験や奨学生時代の学び、頂いた支えを伝えていきたいです。気軽に相談できる先輩でありたいと思っています。
- ⑥まずは「つながること」で、人とつながって小さな一歩を積み重ね、世界と地域をつなぎ、持続可能な社会をつくること」を目指します。



グエン グエン チュック (ベトナム 甲府西RC)

- ①ベトナムの被災地支援のためにロータリーの皆様が行ってくださった募金活動です。遠く離れた国にも関わらず、温かいご支援をいただき、大変感動しました。
- ②自分に対する自信と主体性です。これまで多くの経験や挑戦を通して、自分の考えをしっかりと持ち、行動に移す力が身につきました。
- ③米山奨学金がなかったら、学費や生活費を賄うためにアルバイトに追われる日々を送っていたと思います。その結果、勉強や研究に十分な時間を割くことができず、「留学」の本当の意味を深く理解する余裕もなかったと感じます
- ④普段はなかなかお会いすることのできない経営者や社会にご活躍されている方々と交流する機会をいただいたことが挙げられます。
- ⑥これからの夢や目標を一言で表すと、「恩返し」です。これまで米山奨学金を通していただいたご支援やご厚意に感謝し、その恩を社会に還元していきたいと考えています。



王 雨婷 オウ ウテイ (中国 パワー浜松RC)

- ①米山奨学生として、和服体験や茶道など、日本の伝統文化に触れる機会を多くいただき、とても印象に残っています。



②さまざまな国の方々と交流する中で、多様な価値観や文化に触れ、相手を理解しようとする姿勢が身についたと感じています。

③米山奨学金がなければ、これほど多くの方々と出会い、安心して学びや挑戦を続けることは難しかったと思います。

⑤学友として、国や文化を越えた交流を大切にしながら、これまでの経験を活かして、社会に貢献していきたいです。

⑥人と人をつなぎ、社会に役立てる存在になることです。

ミヤ パール ソー (ミャンマー 清水中央RC)

①世話クラブのクリスマス会や観桜会に参加した際、ロータリアンの皆さまだけでなく、そのご家族とも交流することができ、一緒に楽しい時間を過ごせたことが特に印象に残っています。

②奨学金のおかげで勉学に集中できただけでなく、「ふじのくに国際交流親善大使」として活動する機会にも恵まれ、以前より視野が広がり、向上心を持つようになったことです。

③もし奨学金がなかったら、大学を続けることは難しかったと思います。日本の大学生生活に慣れない中で、勉強とアルバイトを両立することがとても大変だったからです。

④カウンセラーの方が本当の家族のように温かく見守ってくださったことは、米山記念奨

学生ならではの特別な経験だと感じています。

⑤これまで多くの支えをいただいた側から、今度は与える側になり、いただいた恩を社会に返していける人になりたいです。



ファム ティ フォン ニュン (ベトナム 甲府RC)

①例会や交流会で多くの方と出会い、さまざまなお話を聞く中で、新しい考え方や価値観に触れられたことが印象に残っています。

②新しい環境にも前向きに挑戦し、自分から行動できる力が身についたことが一番成長したと感じている点です。

③米山奨学金がなければ、経済的な不安が大きく、家族に頼ることが増え、勉強や就職活動に集中できなかったと思います。

④これまで行ったことのない場所を訪れたり、ボランティア活動に参加したりと貴重な経験ができたことだと思います。

⑥将来は、自分の経験や学びを活かし、社会に貢献しながら、周りの人に良い影響を与えられる人になりたいです。



アーマド チャイルディンムーヤルジャー (インドネシア 袋井RC)

①袋井クラブの皆様が、私を単なる奨学生ではなく「一人の家族」や「後輩」として温かく迎えてくれたことです。佐野カウンセラーの毎回の送迎や、野中さんとバリ島へ旅行したこと、皆様と語り合った恋バナまで、全てが宝物です。

②ロータリーの「4つのテスト」という素晴らしい指針に出会い、自分の行動が「みんなのためになるかどうか」を常に自問自答できるようになったことです。精神的に一回り大きく成長できたと実感しています。

④カウンセラーの佐野さんと本当の親子のように過ごし、会員の皆様と恋バナまでできる深い絆を築けたことです。また学友会を通じて上野さんをはじめとする素晴らしい方々と出会い、静岡西部の皆様と仲良くできたことです。

⑤1年目は仕事に慣れるまで少し忙しくなりますが、2年目からは学友会の活動にも積極的に参加したいと考えています。ロータリーで受けた恩を、次は後輩たちや社会に還元していくつもりです。

⑥「日本とインドネシアの強固な架け橋となり、世界中の人々に幸せと手助けを与えられる存在」を目指し、仕事やたくさんのことに精一杯努力し続けます！



三保松原清掃奉仕活動にて

李 梓玉 リ ジュウ (中国、藤枝RC)

①最も印象的だったのは、藤枝クラブで参加したエンドポリオ募金活動です。例会外での奉仕を通じて、ロータリアンの皆様の思いやりや他者を大切にする姿勢、そして地域の方々との温かなつながりに触れ、日本社会への理解が一層深まりました。

②異文化の中でさまざまな国籍や職業の方々との出会いに恵まれ、言語面だけでなく文化面においても、日本社会への理解と適応が深まりました。

③自分に自信を持ってなかった時期に米山奨学金を頂けるようになり、周囲の温かい支えによって、研究や将来に対して前向きに向き合うことができるようになりまし



世話クラブの皆様とお祭り見物

た。一つ一つの出会いがかけがえのない奇跡であることを実感しています。もし奨学金がなかったら、今の前向きで希望を持った自分はいなかったかもしれない。奉仕の精神や、誠実に人と向き合う姿勢を学びました。これらは大学の研究室だけでは得難い、貴重な経験です。

⑤社会と奨学生をつなぐ架け橋としての役割を果たしながら、積極的に活動に参加し、米山奨学金のご支援へ恩返ししていきたいです。また、自身の経験を後輩の奨学生に伝え、可能な限り人生や生活の面でも支えていきたいと考えています。

⑥将来は製薬分野において、一つの歯車として着実に役割を果たし、日本の医薬品産業に貢献していきたいと考えています。日中两国をつなぐ架け橋となれる存在を目指してまいります。

徐 超 ジョ チョウ (中国 甲府南RC)

①花火大会で突然の大雨に見舞われ、皆で助け合いながら帰った経験や、清掃奉仕活動を通じて感じた温かい交流が最も印象に残っています。

②異文化の中で多様な価値観に触れ、人との関わりを大切にする姿勢や、自分自身を客観的に見つめ直す力が大

きく成長しました。

③奨学金がなければ、経済的な不安から研究に専念できず、現在のような充実した留学生活や多くの出会いは得られなかったと思います。

④多様な業界で活躍されるロータリアンの方々と交流し、普段の学生生活では得られない貴重な経験と人脈を築けたことです。

⑤今後も学友として奉仕活動や交流行事に積極的に参加し、ロータリーとのつながりを大切にしながら社会に貢献していきたいです。

⑥科学研究者として成長し、日中两国をつなぐ架け橋となることを目標に、国際社会に貢献できる人材を目指します。



卒業式にて

朱 正宇 チー ジェンユ (マレーシア 静岡中央RC)

①ロータリアンや他の奨学生との継続的な交流を通じて、多様な価値観や生き方に触れ、自分の将来像がより具体的に描けるようになったこと。

②異なる背景を持つ方々との対話を通じて、相手の立場を理解し信頼関係を築く、人との交流能力が大きく向上したこと。

③生活費を優先せざるを得ず、研究に十分な時間を割けなかったため、大学院進学への機会は得られなかったと思います。

⑥研究を通じて海の資源を守る研究者になること。



稲垣カウンセラーとのツーショット

趙 晨晨 チョウ シンシン (中国、藤枝南RC)

①藤枝南 RC の会員の奥様から日本舞踊りを教えていただきました。日本の伝統文化を学ぶ機会が増えました。

②主体的に考え行動し、コミュニケーションする力が身についたことです。

③人と交流する機会が減り、視野も今より狭くなっていたと思います。

- ④異文化交流や社会奉仕活動に積極的に参加できたことです。
- ⑤学んだ経験を米山奨学生の後輩に伝え、グローバル社会と学友の発展に貢献したいです。
- ⑥「挑戦を続け価値を生み出す人材」になることです。



トラン ティ ミン タム
(ベトナム 甲斐RC)

- ①地区大会で民族衣装を着て募金活動を行ったことです。他国の奨学生、ロータリアンの皆様、学友会の皆様と交流し、共に活動したことが素晴らしい思い出になりました。
- ②以前よりもコミュニケーション能力が向上し、大勢の人前でも自信を持って自分の考えを話せるようになったことです。
- ③アルバイトに追われ、これほど勉強や交流活動、アウトドア活動に時間を割けず、今のような積極的な自分にはなれなかったと思います。
- ④例会でロータリーの多様な奉仕活動を学び、様々な業界で経験豊富なロータリアンの皆様とお話しできたことは、非常に貴重な経験でした。
- ⑥日本とベトナムの友好の架け橋として、両国の発展に貢献できる存在になりたいです。



世話クラブの皆様にも囲まれて

文 成豪 ブン セイゴウ
(中国 甲府北RC)

- ② 奨学期間を通して、私が最も成長したと感じているのは、粘り強く努力し続ける力です。自分がやると決めたことに対して、諦めずに学び続け、努力し続ける大切さを学びました。また、周りの一人ひとりから学ぶ姿勢も身についたと感じています。
- ③ もし米山奨学金がなかったら、今の私はここまで日本文化に興味を持つことはなかったと思います。また、日本の方々と文化の違いについて深く語り合い、理解し合うような経験もできなかったと思います。
- ⑤ これまでの2年間で学んできたことを活かし、自分にできる範囲で、日中両国の交流に貢献していきたいと考えています。そして将来、より力をつけた際には、今度は自分が誰かを支えられるような存在になりたいと考えております。
- ⑥これからは、さまざまなことに挑戦し続ける中で、自分自身を見つめ、成長していきたいと考えています。そして最終的には、自分なりの成功を実現できたらと思っています。



世話クラブの皆様と奉仕活動(後列左2)

于 千恒 ウ センコウ
(中国、南アルプスRC)

- ①一年間を通して、たくさんの思い出ができましたが、最も印象に残っているのは地区大会に参加したことです。たくさんの写真を撮って、美味しいお弁当も食べて、最後にアトラクション「実戦・競輪アワー」を拝見して、車輪が出すスピードの臨場感で、そのオリンピック精神に感動しました。すばらしい時間を過ごしました。
- ②一番自分にとって、成長になったのは、コミュニケーション能力です。例会発言や卓話など、そしてさまざまな奨学生生活動のおかげで、人の前での話せる能力を伸ばせたと思っています。
- ③もし米山奨学金がなかったら、本当に困ります！自分は仕送りがないので、勉強時間が縮まって、その代わりに、毎日常生活費への不安を抱えながら、アルバイトで稼げな

ればならなくなります。まるで暗い海の中で一人で泳いでいるみたいですね。

④世話クラブとカウンセラーとの繋がりができたと思っています。皆さんに大変お世話になりました。クラブのクリスマス家族例会に参加させていただいて、カラオケも一曲歌わせて頂き、楽しくお話ししながら、美味しい食事もしました。心細い自分の寂しさがなくなりました。



笹本清美カウンセラーとのツーショット

周 焜蒨 シュウ ギョウサク (中国 笛吹RC)

①柿田川清掃活動です。実際に川に入って清掃を行うだけではなく、外来種の危害、在来種との違いや見分ける方法も学びました。とても勉強になった活動だと思います。

②「あいさつ」や社交的な話し方です。奨学生としての期間では、さまざまな人と接する機会がありました。カウンセラーさん、委員会や学友会の皆さん、そして同じ奨学生同士と接することで、色々なマナーを学びました。



柿田川清掃奉仕行事にて

③毎週、長時間のアルバイトが続いて、異文化交流どころか、勉強の時間でさえなくなると思います。

⑤微力ながら、中国と日本の架け橋として、両国の友好交流に力を尽くしたいと考えています。

⑥今は日本語教師を目指しています。将来、他の外国人に日本語や日本の文化などを教えてあげたいと思っています。

ラマリンガム サントシュ (インド 浜松ハーモニーRC)

①米山奨学生として、学友会総会や地区大会に参加したことが最も印象に残っています。多くの方々と交流す

る貴重な機会となりました。

②奨学期間を通じて、異文化理解とコミュニケーション能力が大きく向上したと感じています。

③米山奨学金がなければ、日本での学びや経験を得ることは難しかったと思います。

④浜松ハーモニーロータリークラブの皆様が、温かく支えてくださったことが心に深く残っています。

⑤今後は米山学友として、国際交流や社会貢献活動に積極的に参加していきたいと考えています。

⑥将来は社会に貢献できる技術者になることを目標としています。



奨学期間終了式にて

レー ティ ゴック チャム (ベトナム、静岡西RC)

①地区大会に参加したことです。ロータリアンや奨学生、学友と交流し、楽しい思い出だけでなく、多くの学びや人とのつながりを感じました。

②米山奨学金がなかったら、経済的な面だけでなく、このような貴重な出会いや充実した留学生活も得られなかったと思います。

⑤今後はこれまでいただいたご支援への感謝の気持ちを忘れず、後輩の奨学生をサポートしたり、社会活動に貢献したいと考えています。

⑥私の目標は、「人と人、国と国をつなぐ存在になること」です。



黄 永航 ウォン ヨンハン
(マレーシア 掛川RC)

- ①掛川ロータリークラブの例会で、地元の皆様と交流した時間です。温かい激励が研究の大きな支えでした。
- ②異文化の中でのコミュニケーション能力です。多様な視点を持つ方々と接し、視野が大きく広がりました。
- ③経済的な不安から研究に没頭できず、バイオディーゼル燃料の研究成果を出すことも難しかったはずですが。
- ⑤自身の経験を次世代の奨学生に伝え、日本とマレーシア、そして学友会を繋ぐ架け橋になりたいです。
- ⑥「技術で社会に恩返しを」。春からの社会人生活でも、米山奨学生として学んだ奉仕の精神を大切に歩んでいきます。



地区学友 Exchange Meeting にて

劉 璋康 リュウ イコウ
(中国 大月RC)

- ①米山奨学生として最も印象に残っているのは、世話クラブの皆様との交流です。例会や行事を通して、多くの温かい支援をいただき、日本文化への理解も深まりました。
- ②奨学期間を通して、最も成長したと感じるのはコミュニケーション能力です。異なる文化の中で、自分の考えを伝える力と相手を理解する姿勢が身につきました。
- ④米山奨学生ならではの経験として、様々なロータリー活動への参加が挙げられます。普段関わることの少ない方々と交流し、視野が大きく広がりました。
- ⑤今後は、日本で学んだ経験を活かし、自分の専門分野で社会に貢献していきたいと考えています。また、日本と母国の架け橋となれるよう努力しています。
- ⑥「挑戦を続け、社会に価値を生み出せる人材」になることです。



奨学期間終了式にて

陳 依婧 チン イセイ
(中国、浜松南RC)

- ①最も印象に残っているのは、ロータリークラブの皆さんの温かさと親切さです。皆さんはまるで家族のように私を受け入れ、励ましてくださり、そのことにとても感動しました。
- ②一番成長したと感じるのは、スピーチのスキルです。以前は人前で話すのがとても苦手でしたが、毎月、最初の例会でスピーチをする機会をいただいたおかげで、少しずつ苦手意識がなくなり、人前で話すのが怖くなくなりました。
- ③もし米山奨学金がなかったら、生活はもっと苦しくなり、アルバイトに追われて研究に費やす時間が減っていたと思います。ご支援いただいたおかげで研究に集中できたこと、心から感謝しています。
- ⑥「芸術を通じて平和と希望の架け橋になること」です。私の専門は芸術ですので、これからは自分の作品を通じて人々に前向きな希望を与え、両国間のコミュニケーションの架け橋になりたいです。そして、世界がより平和になることを願っています。これはロータリークラブの皆さんから私に渡された「希望の種」であり、私もその種をこれからも次へつないでいきたいと思っています。



世話クラブ秋田聡様とのツーショット

ナンソーカリーウー
(ミャンマー 静岡日本平RC)

- ①奨学生として出会った仲間と、国や文化の違いを越えて支え合えたことが一番印象に残っています。
- ②日本語で自分の気持ちを伝える力と、異文化を理解する姿勢が大きく成長したと感じています。
- ③奨学金がなければ、安心して学業に集中することが難しく、今の自分にはなれていなかったと思います。
- ⑤これからは米山学友として、日本と海外をつなぐ存在になり、学んだことを社会に活かしていきたいです。
- ⑥「人と人、国と国をつなぐ架け橋になること」です。



代 焜超 ダイ ユウチョウ (中国 せせらぎ三島RC)

②奨学期間を通じて主体的に学び続ける姿勢と継続力が身につく、困難にも前向きに挑戦できる自信が大きく成長したと感じています。

③奨学金がなければ進学や学習の機会が限られ、挑戦する勇気や視野も今ほど広がらず、



米山奨学生と世話クラブカウンセラー対面式にて

自分の可能性を十分に引き出せていなかったと思います。

④奨学生として同じ志を持つ仲間との交流や、支援への感謝を実感しながら学べた経験は特別であり、自分の責任感や社会への貢献意識を強く育む機会となりました。

⑤これからは学び続ける姿勢を大切に、自分の専門分野で社会に貢献できる人材になることを目標とし、多くの人の役に立てる存在を目指して努力していきたいと思います。

潘 伝昊 ハン デンコウ (中国 大月RC)

①「日本の父」と仰ってくれたカウンセラーの原さんの心に触れ、国境を越えた真の絆を築きました。一生の宝物です。

②異業種の優れた皆様との交流で多角的な視点を心得、奉仕の精神が行動指針として根付いたことです。

③経済的支援と「大月の大家族」との出会いがなければ、博士課程進学を決断も今の豊かな人生もありませんでした。

④ロータリアンの皆様から社会貢献の意味を学び、奉仕の情熱や平和への願いを共有できたことは米山独自の宝物です。

⑤日中の架け橋として相互理解を深め、教育者となり奉仕の精神を次世代へ伝えます。学友会でも後輩を支えます。

⑥これまでロータリーでの経験を基づく、知恵と奉仕で国境を越えた幸せな未来を築く架け橋になりたいです。



李 俊儀 リ シュンギ (中国、都留RC)

①一番印象に残っているのが三保松原での清掃活動で、参加を通し、環境保護の大事さを改めて認識し、ロータリーの「奉仕」の精神をもう一度考えた機会だと思う。人間と環境との関係性を重視し、それを守ることの大事さをこの清掃活動から学んだ。そのほか、世界遺産であり、日本の自然や文化についての理解を深め、海と松原、そして神社を同時に楽しめる点も大きな魅力だった。

②一番成長したと感じたのは、「まず自分を信じる」という姿勢である。特に、「とりあえず挑戦してみる」とや、「たとえ失敗しても、挑戦することに価値がある」と思えるようになった。これは単なる「自信」とは少し異なる。「自信」は自分を信じるという意味では同じだが、主観的で盲目的になりがちな側面もある。ここでいう「自分を信じる」とは、自信を含みつつも「失敗を恐れずに行動すること、まず挑戦すること」と考えるようになったこと。これが大きな成長である。

③日本語の

native speakers の前で定期的にスピーチをすることが、米山奨学生ならではの経験



3月19日、世話クラブで最後の例会にて

だと思ふ。大学院院生であることで毎月、何回も授業で発表することがある。それはアカデミックな硬い日本語の表現(文章作成)を中心に行うもので、native が使う日本語は実際には知らないことも多かった。卓話をするのが情報交換や日本語のトレーニングにもなり、教科書で学べない日本語も学べるようになった。様々なアドバイスを頂けたことも、1人で生活をしている私は非常に助かった。「交流」することの大事さや、「コミュニケーション」の技法、日本での生活ポイントまで、教えてもらったことが良い経験だった。

④「奉仕」の精神を継承しながら、国際支援をやり続けようと思う。特にグローバルサウスにおける女性に対する支援や研究をやり続けたい。

⑤現在、博士課程に進学し、代理出産について研究している。とりわけ、21世紀における女性の貧困・身体・出産選択・生殖という四つの要素の関係性を検討している。具体的には、グローバルサウスで出産と金銭がどう結びついていのか、なぜ不利な立場に置かれているのか、どんな環境で生きているのかを解明するのが、現在の目標である。将来的には、JICA や国連などの国際機関で働くことを目指し、最終的には、誰もが自由に生きる、生きやすい社会の実現に貢献したい。

8. 2025-26 年度 活動記録 (写真)



(1)	(2)	
(3)	(4)	(5)
(6)	(7)	(8)
(9)	(10)	
(11)	(12)	

(1)～(8)
第17期通常総会と
米山奨学生交流会
(9)～(12)
柿田川湧水公園清掃
奉仕活動



(13)	(14)	
(15)	(16)	(17)
(18)	(19)	(20)
(21)	(22)	(23)
	(24)	(25)

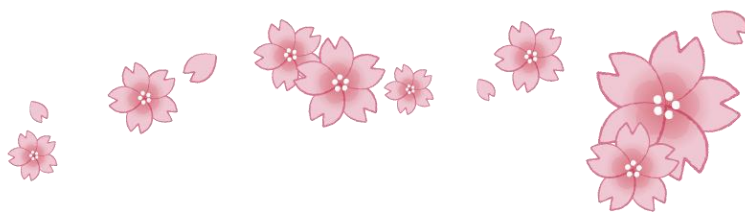


- (13)～(17) 三保松原清掃奉仕活動
 (18)～(19) 募金活動 at 地区大会 (エンドポリオと子ども食堂支援)
 (20)～(22) 地区大会本会議
 (23)～(25) 学友エクスカージョン

9. 2025-26 年度 期間終了の米山奨学生一覧

(奨学生番号順)

氏名	国籍	世話クラブ	居住地
文 成豪 (ブン セイゴウ)	中国	甲府北 RC	山梨県
周 珪蒨 (シュウ ギョウサク)	中国	笛吹 RC	埼玉県
徐 超 (ジョ チョウ)	中国	甲府南 RC	東京都
グエン グエン チュック	ベトナム	甲府西 RC	山形県
ミヤ パール ソー	ミャンマー	清水中央 RC	静岡県
アーマド チャイルディンムーヤルシャー	インドネシア	袋井 RC	静岡県
朱 正宇 (チー ジェンユ)	マレーシア	静岡中央 RC	千葉県
劉 璋康 (リュウ イコウ)	中国	大月 RC	京都府
于 千恒 (ウ センコウ)	中国	南アルプス RC	東京都
トラン タム ティ ミン	ベトナム	甲斐 RC	新潟県
ファム ティ フォン ニュン	ベトナム	甲府 RC	埼玉県
潘 伝昊 (ハン デンコウ)	中国	大月 RC	山梨県
ナン ソー カリヤー ウー	ミャンマー	静岡日本平 RC	兵庫県
フィン フー ヒエン ニャン	ベトナム	静岡北 RC	愛知県
レー ティ ゴック チャム	ベトナム	静岡西 RC	静岡県
趙 晨晨 (チョウ シンシン)	中国	藤枝南 RC	静岡県
李 梓玉 (リ ジュウ)	中国	藤枝 RC	静岡県
ラマリンガム サントシュ	インド	浜松ハーモニーRC	茨城県
王 雨婷 (オウ ウテイ)	中国	パワー浜松 RC	愛知県
陳 依婧 (チン イセイ)	中国	浜松南 RC	静岡県
黄 永航 (ウォン ヨンハン)	マレーシア	掛川 RC	神奈川県
李 俊儀 (リ シュンギ)	中国	都留 RC	兵庫県
代 焯超 (ダイ コウチョウ)	中国	せせらぎ三島 RC	埼玉県



10. 2026-27 年度 新規・継続の米山奨学生一覧

(奨学生番号順)

氏名	国籍	世話クラブ
チャン トアン ドウック	ベトナム	甲府東 RC
グエン ドウック チェン	ベトナム	甲府 RC
サクディア サムリ	インドネシア	駿河 RC
トラン スアン ヒエウ	ベトナム	静岡 RC
趙 材鎬 (チョ ジェホ)	韓国	富士 RC
フィン ヴァンカン	ベトナム	浜名湖 RC
王 寧 (オウ ネイ)	中国	笛吹 RC
スレスタ, パリニト キリスナ	ネパール	甲府南 RC
シン ネハル	インド	韮崎 RC
グエン トゥ タオ	ベトナム	甲斐 RC
楊 芸 (ヨウ ゲイ)	中国	甲府西 RC
ファム ティ リエン	ベトナム	静岡日本平 RC
ナタニア オルヴァラ	インドネシア	静岡西 RC
ベルリアン	インドネシア	静岡北 RC
ヘーラット ラーララー サンドゥニ ドウラクシカ ヘーラット	スリランカ	清水 RC
王 翰 (オウ カン)	中国	静岡 RC
裴 碧瑩 (ハイ ヘキエイ)	中国	掛川 RC
ティリ ライン	ミャンマー	せせらぎ三島 RC
フィオ ティリ スウェイ	ミャンマー	藤枝南 RC
トゥ トゥ リヤン	ミャンマー	磐田 RC
ズオン トゥ チャン	ベトナム	藤枝 RC
ジョフィ ナタニア	インドネシア	清水中央 RC
ヤミン ティリ キッ	ミャンマー	浜松中 RC
王 馨可 (オウ シンカ)	中国	浜松志耀 RC
李 佳鑫 (リ ジャシン)	中国	浜松ハーモニーRC
ラム ウェイ アー	マレーシア	大月 RC
張 傑 (チョウ ジェイ)	中国	三島 RC
丁 建華 (テイ ケンカ)	中国	沼津北 RC



11. 2026-27年度 主な行事予定

行事内容	実施予定日	場 所
第18期通常総会&奨学生交流会	2026年7月12日(日)	米山梅吉記念館
地区米山記念奨学セミナー	7月26日(日)	オンライン
柿田川清掃作業	9月5日(土)	柿田川湧水公園
三保松原清掃作業	9月27日(日)	三保松原
米山奨学生・カウンセラー研修会	10月4日(日)	米山梅吉記念館
エクスカーション・エクスチェンジミーティング	10月24日(土)	藤枝市
地区大会本会議	10月25日(日)	藤枝市
米山奨学生期間終了式	2027年3月7日(日)	静岡市
新米山奨学生、世話クラブ・カウンセラーオリエンテーションと対面式	4月11日(日)	静岡市



2026-27年度地区ロゴ



国際ロータリー第2620地区
Shizuoka Yamanashi
米山学友会



事務局： 〒411-0941
静岡県駿東郡長泉町上土狩 346-1
公益財団法人 米山梅吉記念館 内
メールアドレス yoneyama2620@gmail.com
フェイスブック <http://www.facebook.com/Ry2620>
ホームページ <https://rid2620rotaryfamily.com/>



F B



H P